

教科	工業	科目名	インテリア製図	単位数	2
学科	インテリア科	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア製図 (実教出版)				
副教材など					

1. 科目の目的

製図に関する日本工業規格及び、インテリア・建築・機械の製図についての基礎的な知識と技術を習得し、製作図、設計図などを正しく読む力、及び、インテリア・建築・家具等の図面を構想し作成する能力と態度を育成することを目的とする。

2. 授業の内容と進め方

前期は平面図法（線や角の等分割、多角形・楕円等の描き方）及び、立体図法（立体を平面上に正しくあらわす方法、立体の断面の表し方、立体の表面を構成する展開図の描き方）、寸法・記号の記入方法など基礎的な製図技術を学習し、「基礎製図検定」によりその習熟度を確認する。後期は、家具（テーブル・椅子）の設計図（三面図）の描き方を学習する。

3. 学習する上での留意点

個々の進行状況を把握し個別指導を徹底することでただ模写するだけの図面にならぬよう留意する。

4. 課題等について

- ・提示した課題を提出期限までに提出させる。
- ・授業で不足する時間は自主学習とする。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	・製図規約、エレメント記号、立体の投影図法等の知識が正確で、よく理解し表現できるか。 ・家具製図・パースペクティブの着彩作品のセンス、技術力、完成度。
思考・判断・表現	・図面を正しく読み取ることができ、デザインしたものを図面に正しく起こす能力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	・インテリア・建築・機械製図について関心を持ち、作品作成に意欲的に、かつ、根気強く取り組んでいるか。 ・自主学習に努力し、課題を遅滞なく提出しているか。

6. 評価の方法

評価の観点に基づき、次の項目について総合的に判断し、評価します。

- 1) 各課題の提出状況及びその内容（設計条件の理解・図面の完成度・丁寧さ）により評価する。
- 2) 出席状況、学習意欲、学習態度、学習に取り組む態度を評価する。

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. インテリアと製図 2. 製図の用具と材料 製図用具の使用方法 表現技法に用いる用具と材料	製図とはそこに表現された指示どおりに加工や工事を進めていけば、目標どおりの製品や空間ができるものでなくてはいけない。見る人によって解釈に違いが生じないように、明瞭、正確に表現することが重要であることを認識し、平行定規・ドラフターおよび諸製図用具の正しい使用法を学習する。	行動観察
	5	3. 製図の規約 製図の条件 尺度および線と文字 寸法記入法	図面の構成および種類、スケールや製図に使用する線や文字、寸法や記号の記入法等、製図に関する J I S 規格を学習し、正確な図面を作成する技術を習得する	作品完成度
	6	4. 第三角法・三面図 断面図 補助投影図 展開図	物体の断面図示や、物体の表面を構成する展開図の作図法を学び、正確に図面を作成する技術を習得する。	
	7	5. 図法 平面図法	平面図法の基本として、製図に使用する線と文字の種類や線および角の等分・多角形の作図法・楕円の作図法等を学び、実際に作図する技術を習得する。	
	9	6. 家具製図 ミラースタンド 正投影 (第3角法)	家具の構造や部材の接合方法を学習し、正しく理解して、家具製作の基本となる図面を作図する。図面は正確でしかも解りやすいものになることに留意し、基本的な作図の流れに沿って作業を進める。	
二 学 期	10	ソーイングボックス 正投影 (第3角法)		
	11	サイドテーブル 採寸 正投影 (第3角法)	実際にサイドテーブルを採寸し、スケールを決定後三面図を作成する。	作品完成度
	12			
三 学 期	1	7. CADによる製図 基本操作方法	図面の配置や線の種類の変更、レイヤーの変更など基本的な jw-cad の操作方法を習得し、簡単な三面図の作成する技術を習得する。	操作方法の理解 小テスト
	2	基本図形三面図作成		作業の正確性
	3	基本図形三面図作成2		作業の正確性 小テスト